

6万人が感動した教育界の知られざる名作

『大きな学力』第2弾

生徒、父母、市民から寄せられた感想より

自分の悩みが小さく見えてきた！
(高校3年生)
私も不安や悩みなどが沢山あります。この本を読んで私が悩んでいる事が小さく思えました。世の中にはもっと大きな事で悩んでいる人がいる事、それと、挑戦する事を教えてもらいました。

理想の教師像が変わった！
(教師志望の学生)
自分の理想の教師像が変わった。子どもの心の闇を受け止めるには、よく聞き、受け入れ、共感できるか、まさに人間としての器が問われる。父母、社会、地域の人々と関わりながら、失敗を恐れず、波風体験を大切にしたい「何を言ったか」ではなく、「誰が言ったか」の“誰”になりたい。

壁にぶつかった時こそ、「内的勝利」を！
(父母)
子育てに悩むとき、人生の壁にぶつかる時、どのように考えたら一歩前に進めるか迷ったときこそ、手に取りたくなる一冊です。私はとりわけ「内的勝利」についての記述部分が心に響いてなりません。

単なる教育書ではなく、人生の指南書
(市民)
単なる教育書にとどまることなく人生の指南書のように。こういう教育がされていることに対して一市民として深く感動しました。じっくりかみしめながらも一度しっかり読みたいと思います。

生きる勇気が湧いてきました
(京都府・夫を亡くした市民より)
波風をいとわないでというメッセージ。生きる勇気が湧いてきました。

子どもたちや、親たちが苦闘し、もがき、そしてついに、輝ける時間を手にするまでの真実のドキュメントがここにある。

『21世紀型学び』

の 人間群像

波風体験

自分の「大きな力」に気づくとき

寺内義和



教育の「常識」には「ウン」がいっぱい！
6万人が感動した教育界の知られざる名作
待望の書き下ろし
『大きな学力』第2弾



私学をよくする愛知父母懇談会 第44回総会



2022年11月6日 名古屋港ガーデンふ頭で行なわれた
高校生フェスティバルでの群舞の様子

2023年5月21日(日)
名古屋市公会堂

第44回総会プログラム

第1部

生徒企画

希望プロジェクト 2023

総会行事

開会の言葉	2023年度役員提案
会長挨拶	新役員あいさつ
来賓紹介	2023年度活動計画(案)
来賓あいさつ	2023年度予算(案)
祝電・メッセージ披露	総会決議(案)
議長団・書記・議事録署名人 選出	議長団・書記・議事録署名人 解任
2022年度活動報告	閉会の言葉
2022年度会計報告・監査報告	

第2部

記念講演 おんだ ちさこ 恩田 千佐子氏

「子育て ～失敗も親子の成長になる!～」

アナウンサーとして働きながら結婚・出産・子育てとあわただしく過ごしてきました。保育園・学童保育・夫の父母と実家・ママ友・同僚に支えてもらい、実感しているのは・・・親だけでは子供は育てられない!時には夜汽車に乗って遠くに逃げたい衝動を抑え、時には娘と夜中に2時間話し合いをし、たくさん悩み、多くの失敗を重ねました。今、2人の子どもたちはそれなりに成長しているので失敗も無駄ではなかったのかな、と思っています。そんな体験を皆様の参考にして頂けたら幸いです!

【恩田千佐子さんプロフィール】

東京都出身 1990年中京テレビに入社しアナウンサー歴33年。
夕方の報道番組「キャッチ!」メインキャスター。
長女は25歳社会人・長男は21歳大学生。



・シンボルマーク
愛知(ローマ字の頭文字A)をバックに私学(スクールの頭文字Sが回転永久運動の型)
父母懇(人形を複数で会員表現)の趣旨を図案化

【小林淳一氏の原画】

2022年度 活動報告

私たち「私学をよくする愛知父母懇談会」は「ひとりぼっちの父母をつくらない!」を合言葉に、43年間に渡る活動を続けています。子ども達を真ん中に、父母と先生、市民が一緒になって、共に学び、助け合い、成長できる教育・文化活動と、私学助成の拡充による「公私格差の解消」を目指しての活動です。

2022年度は新型コロナウイルス感染対策を行いながらも、3年ぶりに本格的な活動を再開することができました。6月には「教育を考える初夏のつどい」を県下42会場で開催し、それぞれの地域で「今できる事」を考えながら、父母懇活動をスタートいたしました。

第33回愛知サマーセミナーは、東邦大学・東邦高校を会場として7月に開催されました。生徒、父母、先生、市民が一体となり、豊かな学びと感動を共有し、学ぶことの楽しさと新しいつながりを築きながら、「21世紀型学び」を体感することができました。

8月6日、7日に開催された「夏季一泊研修会」は、3年ぶりの「学びと宴」で、情勢と活動の成果を確認し、秋の大きな運動に向かって士気を上げるとともに、会員相互の親睦を図り、有意義な時間を過ごしました。

10月8日、9日には「第40回全国父母懇愛知大会」が西浦温泉で開催されました。他県からもたくさんの父母、先生が参加され、愛知父母懇の活動報告に耳を傾けていただきました。生徒・父母・先生が一体となる「希望プロジェクト」は大きな感動と共感を生み、次へとつながる活発な交流会となりました。

10月から開催された「地域別県民文化大祭典&夢の学校2022」は、県下39会場にて参加者一人ひとりが主体となり、多くの市民とつながる貴重な学びの場になりました。式典では、たくさんの県会議員の先生方に登壇いただき、「年収720万未満世帯無償化」により、「私学選択の自由」が大幅に広がったことへの感謝の気持ちを伝え、「更なる私学無償化」拡充への願いを幅広い世代の皆さんと共有するなど、各会場で大成功を収めました。

11月6日の「BIGフェスティバル」には大村愛知県知事をお迎えし、「私学を無償に!」の切実な思いを伝えることができました。父母・生徒・先生が三位一体となっておこなった合唱・クラッピング・群舞は、多くの参加者に共感と感動を与えました。

「まだ見ぬ仲間を救いたい」と、一年を通じて生徒たちが取り組んだ「私学奨学資金財団1億円募金」の活動に、私たちは寄り添い、見守り、支えてきました。

「私学助成拡充を求める請願署名」は、昨年と同様に県署名を代表請願とし、12月の県議会において全党一致で採択されました。「丁寧な署名」を心掛けて取り組んだ国署名は176万2305筆を提出することができました。私たちの切なる願いを受け止めていただき、愛知県の2023年度予算では、授業料助成は増額、入学金補助は昨年と同額を維持、経常費助成は中学高校共に、昨年より増額されました。また、市町村助成においては増額された地域がある一方、減額の動きがある自治体でも、地域の行政へ積極的に働きかけることで、廃止阻止、復活へと導きました。これらは、父母の負担を軽減し、「私学選択の自由」につながり私たちの要望に沿った、未来へつながる成果といえます。

一年の締めくくりとなる「第38回春季一日研修会」では、4年ぶりに学校会場で開催することができました。秋の運動の成果が報告され、分科会では各ブロック・学園が取り組んできたこと、頑張ったこと、感動の数々を生徒、父母、先生と共有することができ、今後の父母懇活動へとつながる、有意義な研修会となりました。

また、年間を通じて各地域で取り組まれた「網の目教育懇談会」は、無償化の拡充と共に、「私学を知りたい」公立中学生とその父母の皆さんの期待に応える場となりました。各会場で生徒・父母・先生が語る父母懇の温かな雰囲気の中で、「選択の自由」を現実と感じられた会となりました。

愛知私学の教育実践と人間ドラマが詰まった『されど波風体験』『大きな学力』の2冊は、「21世紀型学び」の方向を示し、より多くの父母・市民に読んでいただきたいとの思いで、各行事や全国で普及に努めました。

コロナ禍で傷つき、孤立を深める世の中に、“ヒューマンイズム”に溢れる「21世紀型学び」で、私学らしい人間教育を創造し、発信しよう！

子どもと大人が共に育ちあう、

私学らしい「21世紀型学び」の創造へ

今、愛知私学では、生徒、父母、教師、市民が一体となって、「21世紀型学び」をめざして、様々な取り組みが行われています。中でも「愛知サマーセミナー」は「教育改革の壮大な挑戦」として全国の教育関係者をはじめ多くの人々から大きな注目を集めています。

今年、第34回を迎える「愛知サマーセミナー」(7月15日～17日)は、名古屋経済大学高蔵中学・高校、名古屋大谷高校、名古屋市立大学を会場に開催されます。著名な特別講師陣はもとより、心熱い生徒、父母、教師、市民による約1000講座のラインナップも決まりました。“参加し、共同して、社会とつながる”「21世紀型学び」の祭典として、今年もたくさんの学びと感動を与えることでしょう。

愛知父母懇は、このサマーセミナーを運営する中心です。行政や地域の諸団体から協力を取り付け、講座の募集や宣伝、当日の受付やスタッフまで、父母の力によってサマーセミナーは支えられています。活躍する父母の“笑顔”で、サマーセミナーには「“ありがとう”の連鎖」が生まれ、誰もが「やってよかった」と感じる“夢の学校”になっています。

社会に「感動」と「共感」の渦を

巻き起こす高校生の姿！

愛知の私学に、毎年新たな輝きを加えているのが、高校生フェスを中心とする生徒たちの躍動です。

高校生フェスは1986年に始まり、既に今年で37年。生き生きと活動する姿で、父母、教師を元気にし、市民に共感を広げてきました。その思いは「高校生は無力じゃない」「私たちは希望になりたい」などの言葉に凝縮されています。

11月6日に名古屋港ガーデン埠頭で「高校生ビッグフェスティバル」を開催することができました。新型コロナウイルスの感染拡大によって数多くの学校行事、部活動の大会が中止される中、当日は、生徒たちの笑顔で溢れ、コロナ禍の暗い気持ちを吹き飛ばして「つながり」を実感する貴重な機会となりました。

「まだ見ぬ仲間を救おう！」

1億円募金活動、「希望プロジェクト」

一 利他の思いで、学び、行動する中高生
生徒たちは1999年から、「経済的な理由で苦しむ仲間を救おう！」と街頭で「1億円募金」を行ってきました。これは、経済的な理由で高校を退学せざるを得なくなる生徒を救うために、私学の先生たちがポケットマネーを出し合って1976年に設立した「私学奨学資金財団」の原資となり、年間12万円を無利子で貸し出す奨学金として、これまでに3129人が受けています。生徒たちは、昨年も「コロナ禍で家庭の経済状況が急変した仲間の力になりたい」と街頭に立ち続けました。募金は累計で約1億8千6百万円に達しています。

また、東日本大震災から12年間、東北への復興支援と「震災を学び、伝える」取り組みを続けてきました。3月11日には、愛知県下10か所で街頭募金を行い、追悼集会にも参加しました。2月6日に発生したトルコ・シリア地震に対しても、復興支援・難民支援の募金活動に取り組んでいます。社会とつながる様々な“学び”と学費の公私格差解消など自分たちの足元の問題を結合した「総合芸術・希望プロジェクト」は、新歓フェスやBIGフェス、オータムフェスなどで大きな感動を広げ、「社会と向き合い、学び行動する」生徒たちを次々と生み出しています。

「一人ぼっちの父母をなくそう！」愛知
父母懇は「21世紀型学び」の大黒柱です
「私たちが学校の枠を越えてつながることができるのは、大人がつながっているからです。愛知には、父母さんたちのつながりが40年以上あるのです」(全国高校生サミットでの生徒発言より)
生徒たちがこうして躍動できるのは、学校の枠を越え、地域と深くつながった愛知父母懇の活動があるからです。「父母懇という“きんと雲”があるから、その上で、子どもたちは孫悟空のように安心して活躍できる」(小島昌夫氏・教育研究者)のです。

「一人ぼっちの父母をなくそう！」愛知

父母懇は「21世紀型学び」の大黒柱です

「私たちが学校の枠を越えてつながることができるのは、大人がつながっているからです。愛知には、父母さんたちのつながりが40年以上あるのです」(全国高校生サミットでの生徒発言より)

生徒たちがこうして躍動できるのは、学校の枠を越え、地域と深くつながった愛知父母懇の活動があるからです。「父母懇という“きんと雲”があるから、その上で、子どもたちは孫悟空のように安心して活躍できる」(小島昌夫氏・教育研究者)のです。

「学費と教育条件の公私格差の解消」は

父母懇の原点

「私学をよくする愛知父母懇談会」(略称：父母懇)は1980年に結成されました。当時、公立と私学の学費の格差は30倍以上に広がり、同じ高校生でありながら、高い学費負担を強いられる父母の願いは切実でした。学費と教育条件の「公私格差」の解消は、「一人ぼっちの父母をなくそう！」と共に、父母懇の「原点」です。

毎年秋には、私学助成拡充を求める署名運動と共に、父母、教職員、生徒、そして多くの市民の参加を得て、「地域別県民文化大祭典(オータム

フェス)」「ドーム祭典」「レインボー祭典」などの教育集会に取り組んできました。

愛知県では「年収720万未満世帯」まで

授業料と入学金の無償化が実現

愛知県では、2020年度、「年収590万未満」世帯の授業料を無償化する「国の就学支援金」の増額分を全額活用して、私学に子どもを通わせている約半数の世帯が対象となる、「年収720万未満」世帯まで授業料と入学金の無償化が実現しました。40年以上続く父母懇の粘り強い運動が実を結び、父母負担の軽減では全国トップ水準の私学助成といえます。

昨年も県下39会場で「地域別県民文化大祭典(オータムフェスティバル)」を開催し、89名の県会議員にご登壇いただきました。年収720万以上世帯の「学費の公私格差解消」を求める父母の切実な声を伝える機会となると共に、生徒、父母、教師、公立中学生が参加する「希望プロジェクト」は私学教育への共感を深める場となりました。そして、12月県議会では、「『教育の公平』をめざして、学費と教育条件の公私格差を抜本的に是正するために、私学助成の拡充を求める」請願を全会一致で可決していただきました。

今年度予算で高校の経常費助成は国基準を維持し、授業料助成は私学平均の上昇分を増額

今年度の愛知県予算では、授業料助成は、私学平均の上昇分が増額され、甲ランク(年収720万円未満世帯)は428,400円、乙ランク(年収840万円未満世帯)は214,800円となりました。学校への「経常費助成」は、高校では国基準を維持して、生徒一人あたり4,117円増の35万4,027円になりました

(中学生は32万9,475円)。

また、長年にわたる父母懇の地域ブロックの取り組みにより、名古屋市をはじめ、県内のほとんどの市町村に独自の授業料助成制度がつくられています。

「教育に公平を！」年収720万以上世帯も学費の公私格差解消を！

「年収720万円」を超える世帯にはまだ大きな負担が残っており、私学の無償化は「道半ば」です。「年収が超えないように調整している。上の子が大学に入り、下の子が私立だとうお金を工面すればいいのか不安」「本人の希望を優先したいが、兄弟全て私立に通わせることは、経済的に苦しいのが本音」など切実な声が数多く寄せられています。これらの声にあるように「乙ランク(年収720万以上世帯)の授業料助成と入学金助成の拡充」は父母の強い願いです。

また、2021年11月に県教育委員会が、2035年までの「県立高校再編計画」を発表しました。周辺部の県立高校の統廃合をしながら、名古屋市や岡崎市の交通の便利な上位校をクラス増するというもので、県内の高校の序列化をさらに拡大し、「受験競争」を激化させることが懸念されます。

公立高校では、年収910万円未満世帯まで無償ですが、私学の年収720万円を超える世帯には大きな学費負担が残っており、まだ私学を自由に選べる状態ではなく、「公私格差」は依然として残されています。

全ての子どもが“学費の心配をせず、自由に私学を選ぶ”ように、そして私学らしい人間教育を目指して、愛知父母懇は、これからもたくさんの人とつながりながら豊かな活動をすすめていきます。

地域別県民文化大祭典

BIGフェス	11/6	名古屋港ガーデン埠頭	南	11/3	大同大学大同高等学校	あま大治	11/20	あま市七宝アートビレッジ
豊川新城北設	10/1	豊川高等学校 鳳翔閣	知多半島北部	11/12	東海市立文化センター	岡崎・幸田	11/20	岡崎城西高校
奥三河	10/1	黄柳野高校	小牧	11/12	小牧市味岡市民センター	天白	11/20	東海学園大学名古屋キャンパス
豊橋・田原	10/2	桜丘高校	東	11/13	東海高等学校	春日井	11/23	春日井市東部市民センター
熱田	10/22	南養護学校	中村	11/13	同朋高校	尾張旭	11/23	スカイワードあさひ
安城	10/29	へきしんギャラクシープラザ	昭和	11/13	南山学園 講堂	瑞穂	11/23	名古屋経済大学高蔵高等学校 中学校
長久手	10/30	イオンモール長久手/イオンホール	豊明	11/13	豊明市 共生交流プラザ/カラット	岩倉	11/23	岩倉市 総合体育文化センター
中	10/30	長円寺会館	千種	11/19	椋山女子学園 中学高校	豊田みよし	11/23	みよし文化センター-アートホール
北	10/30	名古屋市 楠地区会館	海部・愛西 津島	11/19	愛知黎明高校	稲沢	11/27	中和医療専門学校
瀬戸	10/30	聖霊中学 高等学校 第1体育館	日進 東郷	11/19	東郷町イーストプラザいこまい館	北名古屋 豊山 清須	11/27	春日公民館
港	10/30	南陽交流プラザ&南陽中央公園	江南大口扶桑	11/19	扶桑中央公民館	緑	12/4	徳重地区会館/ユメリア徳重
知多半島南部	10/30	武豊中央公民館	守山	11/20	志段味地区会館	一宮	12/4	尾張一宮駅ビル
犬山	10/30	楽田ふれあいセンター	西	11/20	江南国際学園			
中川	11/3	中川区役所 講堂	名東	11/20	東邦高校			

ブロック・学園・地域センター

■ブロック活動

新入生父母歓迎会や花見を見送ったブロックがあった一方で、コロナ禍にあっても精力的に学びと宴を復活させたブロックがありました。

今年度は「網の目教育懇談会」に重点が置かれ、秋だけでなく「初夏のつどい」に教育相談のコーナーを組み込んだブロックがみられました。世帯年収720万円まで授業料と入学金が無償となり、進学先の選択肢が増えたことで私学に興味や関心のある公立中学の生徒や父母が相談に訪れる様子は私学教育への期待の大きさと感じることができました。

モリコロパークから名古屋港ガーデンふ頭の広場に場所を変えて開催されたビッグフェスティバルが、県下39会場のオータムフェスティバルをいっそう活気づけました。各会場で高校生のクラブ発表に加えて公立中学校のクラブ発表や作品の展示があり、公私の垣根を超えたつながりを創り出しています。

今年の希望プロジェクトの「風になりたい」の曲はサンバ調ということもあり、手作りのマラカスを作ってクラッキングをしたブロックもありました。生徒の群舞と父母のクラッキング・合唱が一体となった初めてのオールキャスト方式は、会場を大いに盛り上げ、県議や市議も参加する集会も多数ありました。

今後も私学助成の更なる拡充を目指し、生徒・父母・先生が一丸となってブロック活動を充実させていきたいと思えます。

2022年度 研修会等の開催と参加

■夏の泊研修会

テーマ：

「かけがえのない子どもたちのために、さらに一歩踏み出そう！」
再びつどい、学び合い、仲間とつながる

愛知父母懇談会 夏の泊研修会
3年ぶりに、8月6日(土)7日(日)の泊二日で、ロワジュールホテル(豊橋)にて開催されました。

6日、午前中の全体会。今年のオータムに向けての希望プロの大々的な発表、基調報告、熱い熱い研修会が始まります。

午後は、興味のある分科会の部屋に入って、自由に学べる機会が用意されています。「父母懇ってなあに？」「助成金」講座は、初めて参加される方にもお勧めです。「ブロック・学園・生徒の活動交流会」では、様々な地域の活動が発表されて、とても参考になります。

7日は、昨日から共に過ごし、打ち解けた皆様の楽しそうな様子が印象的でした。

「それぞれの波風体験」では、皆様の発表に涙が溢れることもあります。「合唱・クラッキング」講座では今年の希望プロのテーマ曲「風になりたい」を楽しく練習しました。「モノづくり」講座では、各オータム会場を彩るモノづくりを4種開催され、伝授していただきました。「平和の学習」

■学園活動

22年度はコロナ禍ではあるものの、各学園が助成金学習会、バスツアー、ランチ会、レク活動など、感染拡大に配慮しながら徐々に再開し始めた年となりました。

オータムフェスでも昨年度までは、クラブ活動のステージ発表などの映像を使っていましたが、今年度は「生」ステージが多くなり、元気いっばいの高校生達の姿に感動の連続でした。

新たに愛産大工業高校も加わり、学園父母懇の「学びと宴」がマスク無しの笑顔溢れるフルスペックでの活動ができる23年度になることを期待します。

■地域センター

愛知県内を10の地域(名古屋東部・西部・南部・北部・中部、尾張東部・西部、知多、西三河、東三河)に区分し、各地域の活動を促進する役割を担っています。地域センターの活動には、所属するブロック・学園の代表の父母・生徒・先生が積極的に参加し、各ブロック・学園の情報交換・情報共有が進められています。その深いつながりのもとに、互いに支えあう活動が可能となっています。

また、各地域の特性を踏まえた活動は様々で、センター間の交流を深めることで、より実りあるものになっていると考えられます。

「公私格差の是正」「教育の公平」などの大きな課題にも、地域の意見を集約し、10のセンターが協力して臨めるようにさらに交流をすすめていきます。

講座は、映画の鑑賞から始まり、タニゴトをジブンゴトとして考えることが大切であると、平和について考えた実りある分科会でした。

この様に、盛り沢山の研修会は、大盛況のもと閉会を迎えました。

こうして、集まって、共に学び合うことで、何かが変わった気がします。じわじわと温かい力が湧いてくる様な、そんな気持ちになりました。

今年も皆様の参加をお待ちしています！

■全国私学夏季研修会(さらしな全私研)

第52回信州さらしな全国私学夏季研究集会在、7月30日(土)から8月1日(月)までの3日間、長野県千曲市の戸倉上山田温泉を会場として開催されました。

26の分科会に、全国32都道府県、169校から高校生、父母、先生が987名参加。昨年の完全オンライン開催を経て、3年ぶりの現地開催の集会となりました。

コロナ禍で子どもたちの学校生活が大きく揺らぐなか、学校、教育の現場における成果や課題について真剣な対話がなされました。ようやく叶った実参加での集会は、志を同じくする仲間との一体感や、あたたかさをより一層強く感じさせるものとなりました。

■全国父母懇交流集会

「第40回全国父母懇談会・私学助成をすすめる会 愛知大会」が10月8日(土)、9日(日)西浦温泉「ホテル龍城」にて開催されました。「ひとりぼっちの父母をつくらない」～子どもたちを真ん中に父母と先生が温かいつながりでかけがえのない仲間となって私学教育を助けよう～をテーマに、3年ぶりに現地開催をすることができました。コロナ感染予防対策を講じながら、先生、父母、生徒さん総参加数約400名が集いました。対面で語り合える喜びを感じつつ、大いに学び、語り合う場となりました。

■春の研修会

テーマ：

今こそ声をかけあおう！ともに学び、仲間となつてつながりの輪をさらにひろげる

愛知父母懇談会 春季一日研修会
第38回春季一日研修会が2月19日(日)に同朋高校を会場に開催されました。

同朋高校は昨年度の会場校でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で変更を余儀なくされた

父母懇サマーセミナー実行委員会

第33回愛知サマーセミナーは2022年7月16日(土)～18日(月・祝)、名誉校長に名古屋大学名誉教授の池内了氏をお迎えし、愛知東邦大学、東邦高等学校を会場に「コロナ禍のムコウを見据える『21世紀型学び』の祭典」をテーマに開催されました。そして元外務省国際情報局長の孫崎享氏、元TBS報道特集キャスターの金平茂紀氏、元中日ドラゴンズ選手・プロ野球解説者の井端弘和氏、プロ雀士の松嶋桃氏など、多数の講師の皆様から心に残るご講演をいただきました。

また、コロナウイルス感染者数が急増する中で開催ということで感染予防対策を徹底して行いました。特に会場入口、教室内などの対策を徹底したことで、720講座、23500名の参加者の皆さまに安心して参加していただけたサマーセミナーとなりました。

焼けつくような暑さの中、スタッフ一人ひとり

父母懇一億円募金実行委員会

日頃は一億円募金活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

「一億円募金」とは、経済的理由により、学業の継続が困難な生徒に無利子で年間12万円を貸し出す「一億円募金」による一般奨学金の制度です。

2022年度は2,456,347円の募金を集めることができ、奨学金貸与者は33名です。一億円募金活動が始まってから、2023年3月までに総額1億8713万1195円を集め、奨学金貸与者の累計は3,129名となりました。この募金により、今までに多くの生徒を救うことができています。

生徒たちは、コロナ禍でも試行錯誤しながら「まだ見ぬ仲間を救おう！」をスローガンに、「経済的に苦しむ仲間を救う」ため、懸命に募金活動を行っています。この活動を通して多方面の社会問

題を学んでおり、その熱意は被災地支援募金や、トルコ・シリア地震災害募金活動にも取り組んでいます。

毎月10日・20日・30日のゼロの付く日と、毎週金曜日、16時45分～17時15分に、地下鉄金山駅東口と南口付近で募金活動を行っています。見かけられましたら、温かいお声がけをお願いいたします。

私たち一億円募金実行委員会は、生徒たちの募金を見守り、一緒に学習会をして学んでいます。初夏のつどい、オータムフェスティバルでは、募金箱と共に書き損じはがきの回収箱を設置しております。書き損じはがきは、回収して収益を一億円募金に寄付しています。是非ご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、オータムフェスティバルで、模擬店を出

経緯があり、今回改めて会場校として学びの場を提供していただきました。
過去2回の研修会はコロナ禍のため、規模を縮小して行われましたが、今回は終日開催となり547名の皆さんに参加していただくことができました。「全体会」は日比野会長の挨拶に始まり、同朋高校の滝校長の挨拶、仲井私教連委員長の基調報告がありました。オータムフェスティバルの成功と感動を再び共有し、私たちの活動の意味を確認する場面となりました。
午後の「分科会」では、初めてすべての会場に高校生が参加して、レポート発表があり、活動していく中で成長していく生徒たちを頼もしく感じました。
学園、ブロックのレポートは「未来の子どもたちのために大人ができることは何か」「学園・ブロックの活動を活発にしていくには何が必要か」「授業料無償化をさらに進めていくにはどう活動していくか」「三者が共に成長していくために必要なものは何か」等々のテーマを基に、具体的な工夫やアイデアを直接聞くことができ、活発な議論が交わされ、実りある時間を過ごすことができました。

の心づかいと笑顔があふれた3日間となった2022年度のサマーセミナー。父母、生徒、先生、市民、アスクネット、会場校、他県からの皆様まで、多くの方々との出会いがありました。皆様のご支援とご協力があったこそ、あの暑さを乗り越え感動的な教育祭典を開催できたのだと思います。心より感謝申し上げます。

さて、第34回愛知サマーセミナーは7月15日(土)～17日(月・祝)、名古屋経済大学高蔵高等学校・中学校、名古屋大谷高等学校、名古屋市立大学で「シン・21世紀型学び～私学教育の無限の可能性に賭ける！～」をテーマに開催いたします。特別講師には佐藤康光九段、前川喜平氏など続々と決まっております。サマーセミナーの成功に向けて実行委員会を中心に準備を進めております。今年度もまた皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

また、オータムフェスティバルで、模擬店を出

店し売上を寄付しています。

これからも、生徒たちが行きたい学校に笑顔で通うことができるように、生徒たちを見守り、寄

「されど波風体験」普及推進委員会

今年度も本の普及はもとより、「本の内容を普及する」をテーマに、本の中身を広く知っていただき、目にふれる機会を作りました。また、毎月1回の委員会の開催を定例化し、サマーセミナー、オータムフェスティバルなどでの本の普及活動について話し合いました。

『されど波風体験』『大きな学力』は、父母懇の原点であり、子育てや生き方の方向性を示してくれている本です。普及をひろげることで、父母、先生や市民の方に私学教育や父母懇活動について

全国父母懇実行委員会

毎年10月に、全国の生徒、父母、先生が集い合う全国父母懇交流集会在、コロナ禍により延期。昨年はオンライン開催でした。今年度3年ぶりに、西浦温泉にて、全国父母懇交流集会在を現地開催することができました。愛知の父母、先生方をはじめ、全国の皆様のご尽力に、心より敬意とともに感謝申し上げます。また、応援物資の記念ファイルやお酒、ワイン、トートバックなどの購入にご協力いただきありがとうございました。

希望プロジェクトでは、安城学園高校ダンス部による「ライジングサン」から勢い良くスタートし、父母2名の「弁論」を中心に、生徒の構成詩を重ね、「風になりたい」を高校生の群舞と父母の合唱、クラッピングのオールキャストで披露し、圧倒的な開放感、高揚感あふれる内容で、大きな感動を生み出し、会場を盛り上げました。

記念講演は、『愛知父母懇の元気のもと』と題し、折出健二前会長、柴田千春会長代行、仲井真

り添って活動してまいります。

皆様の温かいご理解とご協力をよろしく願っています。

普及推進委員会

理解を深めていただけたら幸いです。

今年度も愛知私学が制作した映画「それぞれの旅立ち」の上映会を愛知私教連青年協と共同開催することができました。

皆様には一年間普及活動にご協力いただきましてことをお礼申し上げますとともに、今後ともご協力をよろしく願っています。

司愛知私教連委員長が愛知父母懇の魅力をそれぞれの立場から語っていただきました。その後、活気あふれる分科会交流や賑やかな黙食、各県地域別交流会などが行われ、秋の活動に向けて元気いっばいに出発することができました。

状況はそれぞれありますが、「誰のため、何のため」の活動なのかを考え、今！できることを！と試行錯誤しながら、前に前に活動を進め、先生だから、父母だから、生徒だからできることを、互いが信頼し、頼り合いながら、お一人お一人が、「一人ぼっちの父母をつくらない！」と、新たな方に声をかけ、つながりをつくり、子どもたちが生き生きと輝く、私学教育を目指していくことを確認できた「愛知大会」でした。2023年度の全国父母懇交流集会在は9月30日(土)～10月1日(日)に広島県で開催されます。愛知の“風”を全国に届けていきましょう！

専門部活動

■助成金部

助成金部は私学助成の更なる拡充、完全なる無償化を目標に活動しております。

今年度は3年ぶりに研修会での分科会も実施することができ、助成金に対する考え方や市町村助成の要請行動や署名活動、高校生による募金活動などについてそれぞれ活動してきたことを発表し、交流することができました。

10月に行われた全国父母懇では各県での署名活動の難しさや悩みなど2日間にわたり話し合うことができ、とても有意義な分科会を開催することができました。

私学助成の拡充を目指す請願署名の集約作業が助成金部の大切な活動となっております。

愛知県議会へは今年度も代表請願となりましたが丁寧な署名を心がけており国への提出のための集約作業に多くの父母や先生方にお力添えをいただきました。

「全国私学助成をすすめる会」主催の院内集会在が東京で行われ、議員さんへの要請活動やパレードにも参加しています。

様々な活動の結果、今年度は176万筆を超える署名を国に提出することができましたが年々署名提出の数が減っており、署名活動の難しさが課題となっております。

1年間の活動や市町村助成制度をまとめた『ようこそ私学へ』の編集もしており、新入生や中学生の私学案内書として利用されています。

今後も私学の学費完全無償化を目指して活動してまいります。

皆様のご協力宜しく願っています。

■会報部

会報部は『ネットニュース』の発行を中心に活動しています。

コロナ禍2019年から3年間、人々の活動が多様化する中、父母懇も「コロナ禍の後」を模索しながら常に前に進んでいます。会報部は2022年度らしい活動を念頭にスタートいたしました。

「初夏のつどい」が各県でスタートする中、『ネットニュース』をどのように作り上げていったらいいのか、皆が自問自答するも間もなく「サマセミ」「夏の研修会」と大きな行事には「3年ぶり」と

いうフレーズが紙面を飾っていきました。

「夏の研修会」では会報部の活動を少しギアチェンジして、文字でなく視覚で楽しんでいただくことと「写真ギャラリー」の制作も行いました。この写真に集結した父母の笑顔を集め込む為に会報部Tシャツを作り、合わせて部員の笑顔をも作り出しました。

秋に愛知県西浦温泉で行われた「全国父母懇」では、参加された全国の方々へ笑顔のおもてなしが出来るように会報部一同、夜通し楽しみながら「写真ギャラリー」の制作をしました。どちらの「写真ギャラリー」も人々の笑顔を生み出す、会報部最強ツールになり得たと思います。

「オータムフェスティバル」では様々な制約が解禁される中、各地で喜び溢れるドラマが生まれました。

そして「春の研修会」では4年ぶりに学校をお借りしての開催となり、会報部カメラマンも俄然張り切って取材をさせていただきました。

常々皆様より活動のヒントをいただき、2022年度会報部の「らしく」を見つけながら活動してまいりました。

多くの活動の想いが一つに集結。この集結を限られた紙面ではありますが『ネットニュース』に詰め込む「宝箱」となりますように。

最後にお忙しい中、原稿の依頼に快く文章を寄せていただきました多くの皆様に、会報部一同感謝申し上げます。

ありがとうございました。

■研修部

今年度は「夏季一泊研修会」を豊橋ロワジールホテルで、「春の一日研修会」は同朋高校で、ともにコロナ前と同様に開催することができました。研修部一同で『まとも集』を作成しました。

3年ぶり、4年ぶりとなると経験者も少なく、一からのスタートに近い状態で試行錯誤しつつ進めることになりました。今年度もたくさんの部員に恵まれ、はじめの部会みんな緊張の面持ちでしたが、進めるうちに笑顔が溢れ、にぎやかな部となりました。

楽しいなかでも二回目の部会は、急遽オンライン会議に。司会者団会議もオンラインになるなど、準備でコロナ等に苦しみられました。部員の方々もコロナの影響により、当日まで参加できるかどうか分からない状態の中、臨機応変に対応してきました。

その中で仕上げた『まとも集』。記録者でパソコンが苦手な人を別の方がサポートし、原稿のデータ化を自宅で。当日参加できなかった分、まとも集の製本作業を率先して行なうなど、分業制にし

たことで仲間意識も芽生えたり、みんなで考えながら課題を解決したりすることで絆も強くなっていきました。

『まとも集』が完成した時は、本当に感慨深く感動もひとしおでした。ページ数も増大しましたが、参加していなくても伝わるように記録者が「発表者」の思いをのせてくれた結果だと思っています。ぜひみなさままでご覧ください。

最後に、レポート発表の方にはお忙しい中引き受けて下さりありがとうございました。研修部一同、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

■文化部

文化部といえば・・・“宴”

コロナ禍で“宴”がなかった3年間、今年度は“宴”の再開、新たな出発ができた1年になりました。

常にコロナと向き合いながら、今ならどこまでできる？安心して参加してもらうには？の話し合いを繰り返し、文化部最大級のイベント「夏季一泊研修会夕食懇談会」「父母懇バスツアー」を開催することが出来ました。

夏季一泊研修会夕食懇談会では、食事時間とアトラクションの時間をわけ、他の出演者の演目の披露を見る時間を確保するようにしました。盛り上がりがあったアトラクション、この日を待ってましたと言わんばかりの会場いっばいの笑顔。「みんな踊るのが楽しい」「こんなに楽しいんだ。次は舞台で踊る」等々の声を聞くことができました。初参加の人、今まで参加された方も楽しめたのではないのでしょうか。今できる最大限の夕食懇談会になり、大成功でした。

バスツアーでは、静岡に拘りました。コロナが発生した4年前初めて中止になった場所が静岡だったからです。今年度活動していく中で、父母懇の繋がり・絆を大切にしていきたい気持ちが強くなったことで、静岡の旅になりました。188名の参加バス4台(金山3台・西三河1台)で行くことが出来ました。バスの中では気付かなかったですが、昼食会場で188名全員集まると大勢の仲間がいると思えたのではないのでしょうか。

今年度の文化部は、父母8名・先生2名の総勢10名で「笑顔をいっぱい見たい」という想いで活動してきました。夏季一泊研修会・バスツアーの参加経験のない方がほとんどで、今までの資料や写真を見て、想像し試行錯誤しながら、やり遂げることができました。

最後に、“宴”は主催者だけでは、成り立ちません。参加者がいてこそその“宴”です。多くの皆さんに参加いただき、文化部一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

諸会議

〈代表者会議〉	第1回 6月27日(月)	労働会館 東館	第2回 9月3日(土)	労働会館 東館				
〈幹事会〉		4月23日(土)	労働会館 東館					
〈常任幹事会〉	第1回 6月16日(木)	第2回 7月23日(土)	第3回 8月27日(土)	第4回 9月17日(土)	第5回 10月20日(木)			
	第6回 11月17日(木)	第7回 12月17日(土)	第8回 1月14日(土)	第9回 2月14日(火)	第10回 3月11日(土)			
	第11回 4月15日(土)	第12回 5月13日(土)						

サークル紹介

平和学習サークル

LOVE & PEACE ♡

2015年度の「戦後70年未来プロジェクト実行委員会」の趣旨を受け継ぎ、発展させる活動を目指しています。

サークル発足から5年間、広島・長崎・沖縄・地元愛知などで、戦跡をめぐり、語り部の方のお話を聞き、「生」に触れ、学んできました。平和について考える高校生の真剣な姿、支える先生方の熱意に、感動と勇気をもらいました。これからも、「21世紀型学び」を実践するサークルとして、生徒・先生方と一緒に平和について学び、生徒たちの活動を父母としてサポートしたいと思います。

日々のニュースに胸が痛み、世界平和を願う今、私たちに何ができるのか、みんなで考え、できることから一歩ずつ行動していきたいです。

☆新メンバー募集中です！

代表 吉井知子 090-1750-8963



ものづくりサークル はーとふる倶楽部

ものづくりを通して親睦を図るとともに、いろいろな物作りや体験教室などへ出かけそこで得たことを糧に、一泊研修やオータムフェスティバルなどの講座・模擬店で成果を披露したいと思います。また、それらに参加することでさらにつながりを広げ、交流を図りながら楽しく活動していきたいと思っています。

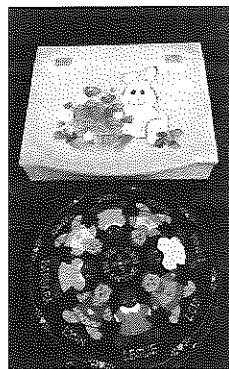
代表：加藤智恵子



トールペイントサークル 「トールプラス」

今年度スタートします「トールプラス」です。トールペイントを通して世代と地域を超えて交流を図り、作品を製作しながら手と口を動かし「楽しかった」と感じられるサークルにしたいと思っています。絵心が無くても大丈夫です。どなたでも参加できます。どうぞよろしくお願いします。

活動
毎月最終水曜日
12時半から14時半
代表 阿部智江



父母懇オカリナサークル オカリ～ナ

小さくてどこにでも持っていけるオカリナ。素朴な音色にほっこりします。みんなで吹けば、もっと楽しい。

新メンバー絶賛募集中です♡
みんな未経験から始めました。息を吹き込めば音が出る！一緒にオカリナ楽しみましょう。

初夏のつどい会場、オータムフェス会場、父母懇総会などで演奏発表を目指します。

代表 牧野由美子 090-6586-0662



2022年度決算報告

(2022年4月1日～2023年3月31日)

■収入の部

(単位：円)

款	本年度予算	決 算	備 考
前年度繰越額	9,178,944	9,178,944	
入 会 金	12,000,000	12,217,500	入会金 4,072名
団 体 会 費	6,371,000	7,103,530	会費 10,164名+私教連¥200,000
利 息 収 入	100	79	
その他の収入	0	0	
合 計	27,550,044	28,500,053	

■支出の部

(単位：円)

款	項 目	本年度予算	決 算	備 考	
事業費		13,600,000	13,052,679		
	集 会 費	総 会	3,700,000	3,383,695	
		大 集 会	2,000,000	1,633,558	第43回総会チラシ・パンフ等
		全 国 交 流 会	500,000	500,000	サマーセミナー拠出金
		そ の 他 集 会	1,000,000	977,602	参加費等
		その他集会	200,000	272,535	初夏のつどいチラシ、会場費・網の目教育懇補助
	助成金活動費		400,000	432,980	
		すすめる会	240,000	240,000	
		活 動 費	130,000	187,180	中央行動にともなう交通費等
	一億円募金活動費		30,000	5,800	
	研修活動費		900,000	450,676	
		全私研参加	300,000	279,400	参加者研修費・宿泊費補助等
		一泊研修会	300,000	121,527	参加者交通費・宿泊費補助・記録費・レセプション補助等
教 研 集 会 等		300,000	49,749	一日研修記録費等	
広報活動費		300,000	264,000	父母懇ニュース発行	
文化活動費		140,000	60,000	サークル活動費	
活動援助費		8,000,000	8,319,502	学園・ブロック還元金等	
渉 外 費		160,000	141,826	アスクネット会費・慶弔関係等	
事務費		6,340,000	5,245,997		
	印 刷 費	900,000	932,016	父母懇リーフレット・ようこそ私学へ・世話人名簿	
	通 信 費	300,000	152,372	電話代・郵便代等	
	交 通 費	3,500,000	2,731,290		
	会 議 費	30,000	12,720		
	I T 関 連 費	150,000	22,000		
	事 務 局 費		1,460,000	1,395,599	
		事務所維持費	250,000	253,514	家賃・水道光熱費等
		備 品 費	800,000	778,300	各備品リース代・コピーカウンター料
		消 耗 品 費	400,000	362,025	コピーインク・コピー用紙・封筒等
事 務 費	10,000	1,760	振込み手数料等		
予 備 費		7,610,044	0		
次年度繰越額		0	10,201,377		
合 計		27,550,044	28,500,053		

貸借対照表 (2023年3月31日現在)

(単位:円)



資 産		負債及び繰越金	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	70,881	事 務 所 積 立 金	6,450,000
普 通 預 金	8,485,978	繰 込 金	10,201,377
定 期 預 金	185,508		
事 務 所 出 資 金	6,450,000		
未 収 金	1,001,310		
前 払 金	457,700		
合 計	16,651,377	合 計	16,651,377

2022年度 会計監査報告

2022年度収支決算書及び貸借対照表を監査しましたが、いずれも事実と相違ありませんでした。

2023年 4月 22日

会計監査

保科和美 
橋本勇二 

2022年度 感謝状贈呈者

清水 俊雄	萩尾 さつき	岸村 まり
下畑 千代子	伊東 良栄	西田 由可利
稲垣 直子	村松 昌弘	内藤 俊史
佐々木 聡子	西川 葉子	角田 知里
小坂 幸枝	伊藤 志保	大塚 裕子
長坂 佳子	山田 千絵美	
小澤 慶子	大谷 久美	
浅井 ますみ	高嶋 幸子	
坂本 あや子	深道 涼子	
水谷 香里	権田 志穂	
黒田 純栄	稲吉 英明	
益田 郁子	神谷 文瑛	
和田 啓子	坂田 かずみ	
服部 千加子	川口 ひとみ	
久志 香緒里	今井 多美子	
小櫻 秀美	加藤 順子	
土屋 圭子	大川 和代	
伊藤 真貴	青木 隆恵	
水野 智慧	伊藤 真理子	
中島 美月	横井 祥子	

(敬称略)

2023年度常任幹事(案)

役職名	氏名	選出母体
会長	日比野 久	常任幹事会
会長代行	柴田 千春	常任幹事会
副会長	山下 みどり	安 城
事務局 局長	小野 澤 勝	市 邨
事務局 次長	出口 久 俊	名 中 セ ン タ ー
	秋 山 康 子	名 西 セ ン タ ー
	江 尻 雅 子	名 東 セ ン タ ー
	槇 野 敬 太	名 中 セ ン タ ー
会 計	大石 都 至 子	東 海
	高橋 裕 子	名 北 セ ン タ ー
書 記	吉田 治 子	尾張西部センター
助成金部 部長 副部長 副部長 副部長	大塚 潤 子	愛 知 淑 徳
	加藤 友 季 子	日 福
	川口 ひ と み	西 三 河 セ ン タ ー
	松 永 幸 子	名 西 セ ン タ ー
会報部 部長 副部長 副部長 副部長	前田 十 六 子	西 三 河 セ ン タ ー
	村瀬 雅 彦	名 西 セ ン タ ー
	新海 み ゆ き	東 邦
	長谷川 由 紀 子	楯 山
研修部 部長 副部長 副部長 副部長	岩 本 美 保	知 多 セ ン タ ー
	橋 本 勇 二	黎 明
	久 志 香 緒 里	同 朋
	鷺 山 実 雪	尾張東部センター
文化部 部長 副部長 副部長 副部長	吉野 留 美 子	名 南 セ ン タ ー
	今村 ま ゆ み	西 三 河 セ ン タ ー
	高 木 紀 江	名 北 セ ン タ ー
	高橋 チ エ ミ	尾張東部センター
会 計 監 査	柴田 史 子	豊 川
	白井 博 江	桜 丘
名 誉 顧 問	竹 本 弘	常 任 幹 事 会
	佐藤 廣 和	常 任 幹 事 会
	山田 肥 名 子	常 任 幹 事 会
	安井 浩 樹	常 任 幹 事 会
	寺田 京 子	常 任 幹 事 会
	折出 健 二	常 任 幹 事 会
顧 問	西手 尚 子	常 任 幹 事 会
	清水 俊 雄	常 任 幹 事 会
	下畑 千 代 子	常 任 幹 事 会

2023年度 活動計画(案)

私学をよくする愛知父母懇談会は、公私格差の解消と「ひとりぼっちの父母をつくらない」を合言葉に、子どもたちを真ん中に、父母、先生、市民が一緒になって、お互いに学び合い、助け合い、共に成長する活動を行ってきました。

昨年は、新型コロナウイルスの規制が段階的に緩和され、感染対策を十分に行いながら、これまで中止や縮小となった行事をすべて再開することができ、皆でつどい、対話で心をつなぎ、温かいつながりで一緒に活動できることがどんなに楽しく、大切であるかを実感しました。

今こそ子どもたち、父母、先生とともに、お互いの成長を目指した愛知私学の人間教育、時代と社会が求める「21世紀型学び」を、個人から家庭、家庭から地域、地域から社会へ発信していくときです。声をかけあい、多くの「出会い」と「きっかけ」、「つながり」をつくり、かけがえない仲間と共に、楽しく朗らかに、平和で生き生きとした社会を目指して、以下の活動に取り組んでいきます。

- 1) ブロック・学園の活動を充実させ、子どもたち、父母、先生、市民がつながる「21世紀型学び」と、仲間づくりを地域へ発信し、県下全域で、生き生きとした楽しい活動を創り出します。
 - ①「教育を考える初夏のつどい」を子どもたち、父母、先生、市民とともに楽しく、豊かに開催し、新しい仲間を地域につなげます。
 - ②ブロックと学園が力を合わせ、小中学生や市民とともに、子どもたちが輝き躍動する「オータムフェスティバル」を開催し、私学の人間教育と私学助成の運動を発信します。
 - ③公立小中学校生の子どもや父母が、愛知私学と出会い、私学教育への共感と理解を広げる「網の目教育懇談会」を開催します。
- 2) 第34回愛知サマーセミナーに主体者として参加し、人々や地域とつながりながら、「21世紀型学び」を発展させます。
 - ①第34回愛知サマーセミナー【会場：名古屋経済大学高蔵中学・高校、名古屋大谷高等学校他】の成功をめざして活動します。
 - ②講座の発掘、開講、参加することでサマーセミナーを主体的に学び、楽しみます
 - ③市民の方とつながりながら、「21世紀型学び」による教育と仲間づくりをめざします。
- 3) 学費と教育条件の公私格差を解消して、子どもたちの「私学選択の自由を広げる」ために、「私学無償化の拡充」をめざして活動を展開します。
 - ①国に対して「就学支援金の拡充」を求める全国統一署名に取り組みます。
 - ②県や県議会に父母の声、子どもたちの声を届け、市民に共感を広げ、オータムフェスティバルの成功にむけて全力で取り組みます。
 - ③市町村独自の授業料軽減助成の拡充をめざして、地域の活動をすすめます。
- 4) 子どもたちの学びを支援し、共に学び、行動する社会力を涵養します。
 - ①愛知県高校生フェスティバルの活動を積極的に支援していきます。
 - ②「私学奨学資金財団」一億円募金活動を支援して、子どもと教育を守る市民のネットワークを広げ、理解と善意の輪を広げていきます。
 - ③子どもたちが主体的に参加し、社会とつながる学びを積極的に支援します。先生や地域の市民と協力しながら、私たちも一緒に学び成長していきます。
- 5) 愛知父母懇の活動を充実させ、組織を強くし、つながりの輪を広げます。
 - ①学びや文化活動、バスツアー、サークル活動等、レクリエーションを通して、「出会い」と「つながり」を大切に、声をかけあい、会員相互の親睦を深め、仲間の輪を広げて、楽しく参加できる父母懇活動をすすめます。
 - ②地域の特徴を活かした豊かな地域センター、ブロックの活動をすすめて、ブロックと学園のつながりを深め、地域と楽しくつながり躍動する場をつくります。
 - ③各実行委員会、推進委員会の活動を活発にすすめます。
 - ④父母懇ネットニュースの発行、父母懇のホームページを活用した情報発信を行い、広く地域の市民へ私学教育、父母懇活動への理解を求めていきます。
- 6) 夏季一泊研修会、春季一日研修会を開催して、愛知父母懇のさまざまな活動を学び合い、父母懇活動の理解と会員同士の交流を深めていきます。
- 7) 9月に開催される「全国父母懇交流集会・広島大会」に主体的に参加します。昨年度開催した愛知大会の経験を活かし、目的や理念を共有する他団体との協働や交流を積極的に進め、新会員の発掘や取り組みを全国に広げていきます。
- 8) その他愛知父母懇の理念に基づき、目的達成に必要な諸活動をすすめます。

2023年度予算(案)

(2023年4月1日～2024年3月31日)

■収入の部

(単位：円)

款	本年度予算	備 考
前年度繰越額	10,201,377	
入 会 金	12,000,000	入会金 4,000名
団 体 会 費	7,051,000	会費 10,100名+私教連¥200,000
利 息 収 入	8,000	
合 計	29,260,377	

■支出の部

(単位：円)

款	項 目	本年度予算	備 考
事業費		14,260,000	
	集 会 費	4,050,000	
	総 会	2,000,000	名古屋市公会堂使用料等
	大 集 会	500,000	サマーセミナー拠出金
	全 国 交 流 会	600,000	参加費等
	そ の 他 集 会	950,000	初夏のつどいチラシ、会場費・網の目教育懇補助
	助成金活動費	460,000	
	すすめる会	240,000	
	活 動 費	190,000	中央行動にともなう交通費等
	一億円募金活動費	30,000	
	研 修 活 動 費	650,000	
	全私研参加	300,000	参加者交通費・宿泊費補助
	一泊研修会	100,000	記録費・レセプション補助等
	教 研 集 会 等	250,000	参加者昼食・一日研修会記録費等
	広 報 活 動 費	300,000	父母懇ニュース発行
	文 化 活 動 費	140,000	サークル活動・バス旅行補助等
	活 動 援 助 費	8,500,000	学園・ブロック還元金等
	渉 外 費	160,000	アスクネット会費・慶弔関係等
事務費		5,610,000	
	印 刷 費	900,000	父母懇リーフレット・ようこそ私学へ・世話人名簿
	通 信 費	150,000	電話代・郵便代等
	交 通 費	3,000,000	
	会 議 費	30,000	
	I T 関 連 費	150,000	HP運営費
	事 務 局 費	1,380,000	
	事務所維持費	250,000	家賃・水道光熱費等
	備 品 費	700,000	各備品リース料・コピーカウンター料等
	消 耗 品 費	400,000	コピーインク・コピー用紙・封筒等
	事 務 費	10,000	振込み手数料等
	雑 費	20,000	
予備費		9,390,377	
合 計		29,260,377	

第44回 総会決議 (案)

私たち「私学をよくする愛知父母懇談会」は、43年間、子どもたちと父母と先生と市民が温かいつながりで語り合い、信頼できる仲間となって、私学のより良い教育環境をつくり、共に子どもと教育を守り育てることで成長してきました。「21世紀型学び」による人間教育と仲間づくりをすすめ、父母と先生と地域のつながりの輪をさらに広げて、すべての子どもたちがかけがえのない存在として認められ、平和な希望の未来を切り拓く、愛知父母懇の活動を行っていきましょう。

1. 子どもと大人がともに楽しく育ちあう「21世紀型学び」を、ブロック・学園から豊かに創り出しましょう！

ブロックと学園の活動を活発に行い、地域センターを基盤につながりをも、子どもたちが輝き活躍できる場を多彩に創り、子どもと大人がともに主体者となって楽しく育ちあう、愛知私学の人間教育、「21世紀型学び」を豊かに創り出しましょう！

2. 私学無償化を拡充して、学費の公私格差を解消し、すべての子どもたちに「私学選択の自由」を実現しましょう！

私学も公教育です。学費の心配をせず、誰もが自由に私学を選べることはすべての子どもと父母の願いです。オータムフェスティバル、署名などの様々な活動を通じて、父母の声、子どもたちの声を発信し、「教育の公平」「私学選択の自由」のために「私学無償化の拡充」をめざしましょう！

3. 「ひとりぼっちの父母をつくらない」父母懇の楽しく温かいつながりを広げ、平和を守り、次の世代につなげましょう！

コロナの規制が緩和され、皆でつどう、父母懇の「学び」と「宴」を広く再開できるようになりました。今こそ、「ひとりぼっちの父母をつくらない」のスローガンのもと、声をかけあい、語り合うことで、心を通わせ、世代を超えて引き継がれてきた愛知父母懇のあゆみを次の世代につなげましょう。楽しく温かいつながりで新しい仲間を迎え、多彩な人々とともに、子どもたちの希望ある未来のために、平和を守り、明るく公平な市民社会を目指して力を尽くしましょう！

2023年度 スローガン(案)

1 子どもたちが誇りをもって私学を選び、学べるように、学費の公私格差を解消して、「私学選択の自由を広げる」ために、私学無償化の拡充をめざして、父母懇の総力を結集しましょう。

2 「教育を考える初夏のつどい」「第34回愛知サマーセミナー」「地域別県民文化大祭典2023」を中心に、学園父母懇・ブロック活動を通して、子どもたちを真ん中に父母、先生、市民、公立小中学校とつながり、地域とつながる「21世紀型学び」を多彩に生き生きと創り上げましょう。

3 地域の小中学生の父母が愛知私学に出会う、「網の目教育懇談会」を県下全域で開催し、ともに語り合い、私学の人間教育と私学助成運動の共感を広げましょう。

4 「地域センター」の活動を発展させ、ブロックと学園がしっかりつながり、地域を舞台に、誰もが躍動する「地域センター」の豊かな活動を創り上げましょう。

5 子どもと教育を守るネットワーク運動を積極的にすすめ、私学奨学資金財団「一億円募金」の理解と善意の輪をさらに広げましょう。

6 「学び」や「文化活動」、「レクリエーション」を通じて、子どもたち、父母、先生と一緒に楽しく参加できるブロック・学園活動をすすめ、「ひとりぼっちの父母をつくらない」を合言葉に、声をかけあい、新しい仲間づくりを活発にすすめましょう。

私学をよくする愛知父母懇談会会則

1. 名称

この会は、私立学校をよくしたいとねがう父母の自由な懇談会で「私学をよくする愛知父母懇談会」(略称「愛知父母懇」)と称します。

2. 目的

この会は、県民が誇りをもって選び、学び、語ることのできる私学づくりをめざし、次のことを目的とします。

- (1)子どもを生き生きと成長させるために、教職員とも連携しながら、各学園に豊かな私学教育を創造し、家庭や地域の教育力を回復するために努力します。
- (2)父母負担を軽減し、受験地獄を解消するために、学費の公私格差の解消をめざして、公費助成の大幅増額のために努力します。
- (3)要望や意見を率直に出し、自由に話し合う中で、教職員や父母相互の理解と連帯を深めるとともに、各界各層の団体や県民・地域住民とも交流し、私学の充実発展を求める県民の合意と世論を広げるために努力します。

3. 活動

この会は、目的を実行するために、次の活動を行います。

- (1)教職員の協力も得て、教育について学びあい、話し合うための集会を持ちます。
- (2)公費助成運動をすすめます。
- (3)会員相互の親睦と連帯を深め、広く父母の参加を呼びかけます。
- (4)学園・地域における父母の活動について交流、懇談します。
- (5)父母と教職員の結びつきを各学園においてもひろげます。
- (6)目的を同じくする他の団体と交流・連携します。
- (7)会報やニュースを発行します。
- (8)その他、会の目的達成に必要な諸事業を行います。

4. 構成

- (1)この会は、個人会員および団体会員をもって構成する。

会員の資格

個人会員：入会金を納めた個人

団体会員：団体会費を納めた団体に所属している会員

- (2)会員はブロックにすべて所属し、活動することを原則とする。

5. 運営

この会を運営するために、次の機関をもうけます。機関での決定は、出席者の過半数とします。

- (1)総会(定期総会は年1回とし、必要に応じて随時開催する)
- (2)幹事会(随時開催する)
- (3)常任幹事会(随時開催する)
- (4)各地域世話人会(随時開催する)

6. 役員

この会は、次の役員をもうけます。役員任期は1年とし、再選は妨げません。

- (1)会長1名(2)会長代行(必要に応じて)1名(3)副会長若干名(4)事務局長1名(5)事務局次長若干名(6)会計2名(7)書記若干名(8)専門部長・副部長若干名(9)会計監査2名(10)顧問若干名(11)幹事(地域センター・学園・ブロック代表およびその他必要とする役職)

7. 財政

この会の経費は、入会金、団体会費および会の活動によってうまれる事業収入、寄付金その他によってまかないます。

8. 事業年度

この会の事業年度は、毎年6月1日よりはじめ、翌年の5月31日までとします。(但し、実行委員会については、職務の性質によってはこの限りではない。)

9. 改正

この会則の改正は、総会において出席者の3分の2以上の賛同によって行ないます。

10. 施行

この会則は、1980年6月15日から実施します。
この会則は、1982年6月13日から一部改正します。
この会則は、1984年6月10日から一部改正します。
この会則は、1987年6月28日から一部改正します。
この会則は、1992年6月7日から一部改正します。
この会則は、2019年6月1日から一部改正します。